

観点別 | 内容と特色

光文書院
内容解説資料別紙

I 教科の目標達成への配慮

観点

内容と特色

具体例

学習指導要領の教科の目標達成に向けて、どのような配慮がなされているか。

<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳的諸価値についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各教材には、冒頭に「導入」、末尾に「かんがえよう（中心発問）」「かんがえよう（別の発問）」「まとめよう（終末）」「ひろげよう（発展）」を設置し、1時限の授業の目的や流れを明確にしています。導入でもった問題を意識して学習に臨み、終末で学習内容を振り返ることによって、授業開始時と終了時における考え・心の変容が実感できるよう意図して作成しています。 	<ul style="list-style-type: none"> → 全学年 各教材 1-40
<ul style="list-style-type: none"> ● 自己を見つける 	<ul style="list-style-type: none"> ● 冒頭の「導入」で子どもの経験を想起させたり、主題に関わる問題意識をもたせたりすることで、教材の内容に興味・関心を抱かせます。それによって学習意欲を高め、目的意識をより明確にしたうえで、学習に取り組めるようにしています。 ● オリエンテーションの中で、育てたい子どもの姿を4つの観点で提示することで、子ども自身が「なりたい自分」をイメージできるようにし、自己を見つめ、自分自身の答えを見つけられる子どもの育成につなげられるようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> → 全学年 各教材 冒頭導入 → 全学年 P.2-3 「ゆたかな心」
<ul style="list-style-type: none"> ● 多面的・多角的に考える 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもに寄り添うキャラクターを設定し、共感や気づき、考えるためのポイントや考えを広めるための見方など、さまざまな「問いかけ」を行えるよう配慮しています。多様な見方・考え方を実感できるようにし、子どもの多面的・多角的な思考を促すよう工夫しています。 ● 考えをまとめたり、広めたりするための手だてとして、オリエンテーション内に思考ツールの活用方法を提示しています。 	<ul style="list-style-type: none"> → 全学年 各教材・扉・コラム（キャラクターの問いかけ） など → 全学年 P.6-7 「いろいろなやり方で考えてみよう」
<ul style="list-style-type: none"> ● 自己の生き方についての考えを深める 	<ul style="list-style-type: none"> ● 終末では「まとめよう」として、その時間に学習した内容を振り返るポイントを提示し、「考えたこと」「わかったこと」「学んだこと」を確認します。学習内容をまとめる活動を通し、学んだ道徳的諸価値を自分との関わりの中で捉え、発展させることができるよう配慮しています。 	<ul style="list-style-type: none"> → 全学年 各教材 末尾 「まとめよう」
<ul style="list-style-type: none"> ● 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発展では「ひろげよう」として、「道徳の時間」で学んだことを他教科や学校での活動、家庭生活、地域社会などへとつながりをもたせ広げていくためのポイントを提示しています。1時限の授業の流れを通して、道徳的諸価値を理解し、それを大切にすることを育てるとともに、実生活へ生かそうとする意欲を引き起こすことができるよう、配慮しています。 	<ul style="list-style-type: none"> → 全学年 各教材 末尾 「ひろげよう」

学習指導要領の内容の指導にあたって配慮すべき事項に対し、どのような配慮がなされているか。

<p>道徳科の特質を生かした計画的・発展的な指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳教育が学校教育の要となるよう、計画的・発展的な指導を行うこと。特に、各教科における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うことや、児童や学校の実態などを踏まえて指導をより一層深めること、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の冒頭にオリエンテーションとして「ゆたかな心」を設置することで、道徳の学習で「何を、どのように学ぶのか」を明らかにし、道徳性を養う意義を子ども自らが考え理解し、目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるように配慮しています。 学校や地域の実態などに即して弾力的に取り扱えるように、1年は6本、2年～6年は5本のふろく教材を用意しています。 各教材には主となる内容項目と関連する内容項目をそれぞれ設定し、内容項目同士が相互に関係しあい、多面的・多角的に思考を進められるよう配慮しています。 	<p>→全学年 P.2-9 「ゆたかな心」</p> <p>→全学年 付録教材（1年35-40、2-6年36-40）</p> <p>→全学年 最終ページ「内容項目別 教材一覧」</p>
---	---	---

<p>児童が主体的に道徳性を養うための指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。その際、道徳性を養うことの意義について、児童自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションでは、「どうしてだろう」「なぜだろう」と、子どもが常に「問い」をもって授業に臨むことの重要性を示しています。各教材においても、導入での問いをもたせる活動や、「かながえよう」の問いかけを通して、子どもがただ教材を読むのではなく、自主的・主体的に問題について考える学習ができるような工夫をしています。教材末尾には考えたことをまとめ、授業後の生活に広げられるよう、「まとめよう」「ひろげよう」といった終末・発展の工夫を取り入れています。 学習後は振り返りを記述し蓄積できるよう、巻末自己評価シート「学びの足あと」を設置しています。記述を重ねることで、授業後の心の動きや学びを継続し、子ども自らが成長を実感することで、新たな課題や目標を見つけながら学習に取り組むことができます。 	<p>→全学年 P.4-5 「道徳の時間は、こんな時間です」</p> <p>→全学年 巻末折り込み「学びの足あと」</p>
--	---	---

<p>多様な考え方を生かすための言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な見方・考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えをもとに話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実すること。 	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションでは、話し合い活動についての方法を掲載し、その重要性や目的がわかるようにしています。また、「道徳のノート」の例を提示し、書いてまとめることによって理解を深めたり整理したりできることを示しています。 本編の教材では言語活動との関連を踏まえ、題材と関連する本を読む読書活動や考えたことをノートなどに書いて言語化する活動を終末「まとめよう」・発展「ひろげよう」で提案しています。また、コラム「ことばのたからもの」では、人生の道標や支えとなるような言葉を紹介し、教材とも関連させることで、言葉のもつ力を実感できるようにしています。 「学びの足あと」に授業後の記録をつけることで、自分の考えを表現する力を育み、学習を継続的に深められるようにしています。 	<p>→全学年 P.4-5 「道徳の時間は、こんな時間です」 P.8 「話し合って考えてみよう」 P.9 「まとめよう・ふりかえろう」</p> <p>→1年 P.125 「32二わのことり」 ひろげよう 4年 P.159 「35せいっぱい生きる 一命の詩」 ひろげよう 6年 P.65 「13自然のゆりかご」 ひろげよう など</p> <p>全学年 コラム「ことばのたからもの」(1年 P.154、2年 P.170、3年 P.178、4年 P.182、5年 P.186、6年 P.186)</p> <p>→全学年 巻末折り込み「学びの足あと」</p>
---	---	---

<p>問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、工夫すること。 	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションでは、道徳の授業で考えたことを日常生活に生かし、さらに生活の中で生まれた問いをもって道徳の授業で考えるという流れを表現し、日常生活や自分との関わりの中で道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことを子どもに意識づけられるように工夫しています。また、他者の見方・考え方を確かめたり、ものごとを多面 	<p>→全学年 P.8 「話し合って考えてみよう」</p>
---	--	-------------------------------

<p>現代的な課題に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報モラルに関する指導を充実すること。また、児童の発達段階や特性などを考慮し、社会の持続可能な発展などの現代的な課題の取扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係に置いて考え、それらの解決に寄与しようとする意欲や態度を育てるよう努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 的・多角的に考えたりすることができるよう、話し合い活動の具体的な方法を提示しています。 オリエンテーションでは、体験することの重要性に子どもが着目できるようにしています。また、授業で学習したことが生活の場での体験につながる意識づけができるような構成としています。 コラム「みんなでやってみよう！」を全学年に設置し、よりよい人間関係の構築に必要なコミュニケーションスキルを高めるための体験的な活動を提示しています。 	<p>→全学年 P.4-5 「道徳の時間は、こんな時間です」内「考えよう」</p> <p>→全学年 コラム「みんなでやってみよう！」(1年 P.14、2年 P.38、3年 P.28、4年 P.14、5年 P.46、6年 P.30)</p>
--	---	---

<p>情報化への対応については、「規則の尊重」「善悪の判断、自律、自由と責任」「相互理解、寛容」「節度、節制」といった各内容項目の教材において情報モラルに関わる内容を題材として扱い、情報社会で適正な活動を行うためのものとなる考え方や態度について考えられるようにしています。また、情報モラルは特に配慮が必要な項目と捉え、全学年とも本編の教材のほかにコラムとしても取り上げています。その他、「健康教育」「防災教育」「キャリア教育」「主権者教育」などの諸課題についても、教材の題材として取り入れ、その学習での学びを、子どもが自分自身の生活と結びつけて考えられるようにしています。</p> <p>●いじめの防止や安全の確保といった課題については、子どもにとって喫緊の問題であると捉え、各内容項目の教材において、直接的・間接的にいじめについて子ども自身の問題として捉えられるような教材を選定しています。さらに全学年に重点主題として設置し、「いじめを生まない心」を主眼に、子ども自らがいじめの防止などに主体的に関わる態度を育めるように配慮しています。</p> <p>●他者との共生については、障がいの有無や文化の違いなどにとらわれることなく、互いのよさを認め合いながら協働し、ともに生きていこうとする態度を育めるように配慮しています。</p> <p>●「規則の尊重」「公平、公正、社会正義」「国際理解、国際親善」「生命の尊さ」「自然愛護」といった各内容項目において、持続可能な開発のための教育（ESD）を意識した学習ができるよう配慮しています。また、全学年にSDGs コラム「みんなで作る『わたしたちの未来』」を発達段階に合わせて設置し、さまざまな課題に対して子どもたちが自分ごととして主体的に担う力を育めるように配慮しています。</p>	<p>→1年 P.42 「12ルールがないとどうなるの？—スマホやゲームきなどをつかうとき—」(規則の尊重) 3年 P.42 「9ヒントまであと少し」(善悪の判断、自律、自由と責任) など</p> <p>→全学年 コラム「情報モラル」(1年 P.46、2年 P.54、3年 P.46、4年 P.66、5年 P.64、6年 P.48、P78)</p> <p>→4年 P.72 「15心の体温計」(健康教育) 2年 P.156 「37あかりをかこんで」(防災教育) 5年 P.32 「6チョコレート工場の本田さん」(キャリア教育) など</p> <p>→全学年 重点主題「いじめを生まない心」(1年 P.65、2年 P.17、3年 P.131、4年 P.41、5年 P.107、6年 P.49)</p> <p>→2年 P.56 「13オリンピックとパラリンピックのはたし」 5年 P.36 「7七十七億個のピース—星野ルネ—」 など</p> <p>→1年 P.98 「27エマさんのこたえあわせ」(国際理解、国際親善) など</p> <p>→全学年 SDGs コラム「みんなで作る『わたしたちの未来』」(1年 P.132、2年 P.152、3年 P.156、4年 P.160、5年 P.164、6年 P.164)</p>
--	--

<p>家庭や地域社会との連携による指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材には、家庭での出来事や地域との交流を描いたものなど、家庭や地域との連携が取りやすい題材を多種取り入れています。また、教材の末尾の「ひろげよう」においては、家庭や地域の人たちとの関わりをもたせた活動を提示し、学習したことが子どもたちの実生活へつながるように配慮しています。 子どもたちが地域社会の一員として、他者と連携、協力しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担う力を養うことを目指した教材を、各学年に取り入れています。 	<p>→1年 P.48 「13まちたんけん」 6年 P.22 「4松井さんのえがお」 など</p> <p>→4年 P.68 「14『結』をつないで—白川郷—」 5年 P.116 「25心の管理人」 など</p>
---	---	---

観点	内容と特色	具体例
教育基本法に示された教育の目標を踏まえ、どのような配慮がなされているか。		
● 真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う (教育基本法第二条一)	● 教材に主題を設定し、道徳的価値の理解とともに、その行為を生み出す心を学び感じること、学んだことを実践しようとする意欲と態度を育むことをねらいとしています。 ● 教師用指導書において、これらの主題のねらいを詳細に設定するとともに、主題設定の理由を目標観、児童観、教材観、指導観の4つの視点から解説することで、子どもたちが深い学びを行うための指導ができるよう工夫しています。	→ 全学年 各教材冒頭 主題
● 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う (教育基本法第二条二)	● 「個性の伸長」の内容項目の教材を中心に、個性を生かすことを学び、偉人や活躍する著名人の生き方を通して、キャリア教育の見地からも、自らの特性を育み学べる教材を用意しています。	→ 3年P.140 「32紙の中の映画 一手塚治虫」 4年P.54 「11わたしのゆめ」 など
● 職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う (教育基本法第二条二)	● 「勤労、公共の精神」の内容項目の教材を中心に、さまざまな人物に焦点をあて、キャリア教育にもつながる教材を用意しています。働くことの社会的意義と充実感に触れ、みんなのために働くことのよさを実感できるよう配慮しています。	→ 4年P.100 「22ホペイロのヤマさん」 5年P.138 「31明日へ向かって」 など
● 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる (教育基本法第二条三)	● 「善悪の判断、自律、自由と責任」「公正、公平、社会正義」の内容項目の教材を中心に、責任ある行動ができる姿、分け隔てせず、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努める姿を目指せるよう配慮しています。 ● 「友情、信頼」の内容項目の教材を中心に、互いに信頼し、よりよい人間関係を構築して協力して生活していく態度を養えるよう配慮しています。	→ 6年P.18 「3自由な公園」 (善悪の判断、自律、自由と責任) 3年P.84 「18お日様の心で」 (公正・公平・社会正義) など → 6年P.152 「33めざせ、百八十回！」 など
● 公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う (教育基本法第二条三)	● 「勤労、公共の精神」の内容項目の教材を中心に、多様な社会奉仕活動や学校内での奉仕活動などを取り上げ、社会の構成員として、主体的に社会の形成に参画し、さまざまな課題と向き合い、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮しています。	→ 6年P.58 「12広村堤防の清掃ボランティア」 など
● 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う (教育基本法第二条四)	● 「生命の尊さ」「自然愛護」の内容項目の教材を中心に、命はかけがえのない大切なものであり、自他の生命を尊ぶ心を育成するとともに、自然の不思議さ、雄大さを感じ、大切に生きていく態度を育成できるよう配慮しています。特に「生命の尊さ」については、全学年に重点主題として設置し、「命をかがやかせる」を主眼に、自らが自他の命を大切に生きていく態度を育成できるよう配慮しています。	→ 全学年 重点主題 「命をかがやかせる」 (1年P.25、2年P.139、3年P.103、 4年P.153、5年P.149、6年P.135)
● 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する (教育基本法第二条五)	● 「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の内容項目の教材を中心に、地域に根づく伝統や文化、行事、先人の業績など、子どもにとって身近なものを題材とした教材を取り入れ、伝統と文化を尊重し、国や郷土を愛する態度を養うことができるよう配慮しています。	→ 3年P.60 「13キツネおどり」 6年P.100 「21これが日本」 など
● 他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う (教育基本法第二条五)	● 「国際理解、国際親善」の内容項目を中心に、諸外国の生活や文化について紹介したコラムを各学年に設置し、諸外国の文化や生活を尊重し、ともに親しむことにつながるよう配慮しています。	→ 2年P.134 「32ジョゼクんとおりがみ」、 コラム 「日本とがいこく、おなじ？ ちがう？」 など

II 教材選定上の特色		
観点	内容と特色	具体例
○ 学習指導要領の内容項目を学習するために、適切な教材が選定されているか。	● 幅広い知識と教養を身につけるため、クラスや学校生活など、子どもが自分のこととして考えやすい話題や、読み継がれてきた名作、人間としての生き方に迫ることができる題材を用意しています。本教材として、1年は34本、2年～6年は35本を掲載し、学習指導要領における目標、内容項目がもれなく指導できます。また、各学校の指導計画に応じた入れ替えができるように、1年は6本、2年～6年は5本の付録教材を掲載し、多様な指導に対応できる構成になっています。 ● 特に「重点的な指導を必要とすることがら」については、長期的な見通しをもってしっかり育むという趣旨のもとに、連続的に扱うことでより効果が得られる教材を子どもの発達段階に考慮して、1年～6年で系統立てて設定しています。	→ 各学年 教材40本
○ 生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題を題材とした教材が掲載されているか。	● 「生命の尊厳」「自然」「伝統と文化」「先人の伝記」「スポーツ」といった題材は、発達段階を考慮しながら全学年に設置しています。 ● 特に「生命の尊厳」については、人間尊重の精神を重んじ、生命に対する畏敬の念をもち、人間としてよりよく生きる喜びにつながるよう、重点主題として6年間の見通しをもって取り組めるようにしています。 ● 学習内容をより発展的に思考させたい教材にはコラムを設置し、子どもの興味・関心を喚起するとともに、教材や内容項目に対する考えを深められるようにしています。 ● 情報社会を生きるための情報モラルを取り扱った教材、ならびにコラムを各学年にそれぞれ1・2本用意し、6年間を通して学習できるように配慮しています。	→ 重点主題 全学年 「命をかがやかせる」 全学年 「いじめを生まない心」 1-2年 「へこんでも立ち直る力」 3-4年 「みんなで力を合わせて」 5-6年 「世界中のいろいろな人とつながるために」 → 1年P.18 「4がっこうたんけん」 2年P.14 「2学校たんけん」 など
○ 他教科や特別活動と関連するものとして使用できる工夫が、教材の中でどのようになされているか。	● 各学年の他教科での学習や特別活動を意識して、教材の題材や発展での活動を精選しています。 ● 教師用指導書では、関連、連携のための指導計画例を解説し、授業前や授業後の他教科や特別活動、日常生活と道徳の授業とのつながりが明確になるよう工夫しています。	→ 3年P.14 「2目をさますたね」(自然) 6年P.174 「38よみがえれ熊本城」 (伝統と文化) 4年P.122 「27ノーベル賞の生みの親 —アルフレッド・ノーベル—」 (先人の伝記) 5年P.10 「1みんなといっしょに前へ、前へ —池江璃花子—」(スポーツ) など → 全学年 重点主題 「命をかがやかせる」 (生命の尊厳) → 1年P.60 「ゆうきの とびら」 など → 5年P.60 「12ゆかりのアイコン」、 コラム 「おたがいの権利を守るために」 (情報モラル) など
○ 挿絵、図版は適切に用いられているか。	● 教科書のサイズをAB判とし、見やすい紙面と写真やイラストが引き立つレイアウトによって、子どもの興味・関心や思考が深まるようにしています。また、すべての子どもにとって見やすい色づかいになるように配慮し、全ページの配色や色に関わるデザインは専門家による確認を行っています。	→ 2年P.144 「34わたしのものがたり」(生活科) 3年P.34 「7春の女神をまもる —ギフチョウ—」 (理科) 5年P.82 「17世界の文化遺産」(社会科) など

Ⅲ 学習・指導への配慮

観点	内容と特色	具体例
●教材、構成の配列や分量は適切に設定されているか。	●教材の内容がわかりやすく、かつ考える時間を十分に取れるよう、 発達段階に応じて学年ごとの教材の文章量に配慮 しています。 ●学習時期と教材内容の季節が一致するように教材の順番を設定することで、子どもが自分ごととして教材を捉えやすいように配慮しています。	→全学年 各教材
●発達段階に配慮した表記・表現の工夫がどのようになされているか。	●読みやすさを考慮し、 漢字は前学年までに習った漢字の使用を基本とし、2年までは分かち書き としています。また3年まではすべての漢字に、4年からは当該学年以上の漢字にふりがなを振っています。 ●子どもにとってなじみのない言葉やわかりづらい言葉については脚注で説明し、それらが思考の妨げにならないよう配慮しています。 ●教材内の登場人物をわかりやすくするために、必要に応じて 教材の冒頭に登場人物を整理 して表示しています。	→全学年 各教材 →4年P.25「4十さいのプレゼント」 脚注「奥秩父」 など
●特別支援教育等に対しどのような配慮がなされているか。	●教科書のサイズをAB判とし、 スペースが大きく見やすい紙面、かつ子どもが扱いやすい教科書サイズ になるよう配慮しています。 ●目次では、各種アイコンについての説明を設け、わかりやすくなるようにしています。また、オリエンテーションでは、教科書の構成や道徳授業での考え方を紹介しています。 ●図版やグラフなどの配色について、 すべての子どもが見やすい色づかい になるように、全ページの配色や色に関わるデザインに配慮し、専門家による確認を行っています。	→教科書 紙面判型 →全学年 もくじ、オリエンテーション →教科書内各種図版、イラスト など
●体験的活動を指導に取り入れるための工夫がどのようになされているか。	●オリエンテーションでは、体験することの重要性に子どもが着目できるようにしています。また、 授業で学習したことが生活の場での体験につながるという意識づけができるような構成 としています。 ●オリエンテーションでは、体験的活動によって、より効果的な学習につながる教材を提案しています。 ● 挨拶や言葉づかいなどでは、具体的な行為を行うことで、そのよさや難しさなどを体験する活動を提示し、他教科の学習や家庭や地域での活動で実際に行えることを想定 しています。 ●コラム「みんなでやってみよう！」を全学年に設置し、よりよい人間関係の構築に必要なコミュニケーションスキルを高めるための体験的な活動を提示しています。	→全学年 P.4-5 「道徳の時間は、こんな時間です」内「考えよう」 →全学年 P.7「いろいろなやり方で考えてみよう」 内「やってみて考えよう」 →4年P.115「25せきが空いているのに」 ひろげよう など →全学年 コラム「みんなでやってみよう！」 (1年P.14、2年P.38、3年P.28、 4年P.14、5年P.46、6年P.30)
●主体的・対話的な問題解決型学習を行うための工夫がどのようになされているか。	● 子どもが自ら「問い」をもって授業に臨むことの重要性 を踏まえて、各教材において、子どもの経験や生活の中から「問い」がもてるように、さまざまな設問（導入）の工夫をしています。 ●教材の最後には、2つの「かんがえよう」の問いかけを設置しています。ねらいに迫る視点からの問いかけと、多角的・多面的に考えられるような問いかけをもとに、 子どもたちが考えを広めたり、深めたりすることで、問題の解決に向けて取り組むことができる ように配慮しています。 ●教師用指導書では、「主発問を明確にする」「板書例を段階ごとに3つ用意する」など、子どもの主体的・対話的な問	→全学年 各教材冒頭 →全学年 各教材末尾「かんがえよう」

観点	内容と特色	具体例
●児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすための評価の工夫がどのようになされているか。	●子どもが学習後の振り返りができるように、巻末に自己評価シート「学びの足あと」を用意しています。 授業後の心の動きや学びを継続して記しておくことで、自ら成長を実感し、新たな課題や目標を見つけて学習に取り組める ように配慮しています。また、学期末や年度末といった長期間での振り返りもできるように、「まとめ」欄も設けています。 ●オリエンテーションに「まとめよう・ふりかえろう」として、道徳ノートの例を提示し、各時間の考え方や中長期的な考え方の変容を見ることができるとして活用できるよう提案しています。教材末尾の「まとめよう」「ひろげよう」においても、考えたことをノートなどに書いて記録する活動も取り入れながら、子どもの変容を評価できるような工夫を行っています。	→全学年 巻末折り込み「学びの足あと」 →全学年 P.9「まとめよう・ふりかえろう」 全学年 各教材末尾「まとめよう」「ひろげよう」
●家庭、地域との連携した道徳教育を行うための工夫がどのようになされているか。	●教材には、 家庭での出来事や地域との交流を描いたものなど、家庭や地域との連携が取りやすい題材 を多種取り入れています。各教材末尾の「ひろげよう」においても家庭や地域の人たちとの関わりをもたせた活動を提示し、学習したことが子どもの実生活へつながるように配慮しています。	→1年P.22「6いっしょにするよ」 4年P.166「37つたえたい『ありがとう』」 など →全学年 各教材末尾「ひろげよう」
●ICTを活用した教育を行うための工夫がどのようになされているか。	●授業の導入や展開にデジタルコンテンツを活用すると効果的な教材には、 二次元コードを付加 しています。インタビュー動画、教材に関連する動画や写真などを活用することで、子どもの学びをサポートします。 ● 教師用指導書にはデジタル付録がセット になっており、教材内のイラストデータやプロによる朗読、教材関連の動画などが収録されています。 ●デジタル教科書を活用することにより、教材の内容をより深め、効果的な学習ができるよう工夫されています。	→2年P.110 「26うつくしいもの、うつくしいところ」 5年P.122「27しげちゃん」 など →教師用指導書デジタル付録 →デジタル教科書
●印刷、製本上でどのような配慮がなされているか。	●印刷には植物油インキを使用しています。また、製本には針金を使用せず、 堅牢性を保ちながら環境にも配慮 しています。製本の際には、はがれにくい糊を使用するとともに、表紙に筋を入れることで、頻りに開閉しても壊れないよう工夫しています。	→教科書本体

IV 内容項目 4つの視点別特色

視点

内容と特色

具体例

○ | A |

主として自分自身に
関すること



Aの視点のアイコン

- 自己のあり方を自分自身との関わりで捉え、望ましい自己の形成を図るための教材を各学年に8～11点設置しています。
この視点の教材には、次の内容項目が系統的に考えられるよう網羅されています。
 - 善悪の判断、自律、自由と責任
 - 正直、誠実
 - 節度、節制
 - 個性の伸長
 - 希望と勇気、努力と強い意志
 - 真理の探究 (5年・6年)

- 1年P.58 「16ぼくはいかない」
(善悪の判断、自律、自由と責任)
- 4年P.78 「17ぼくはMVP」 (正直、誠実)
- 3年P.112 「25太郎のいどう教室」 (節度、節制)
- 6年P.126 「27勇太への宿題」 (個性の伸長)
- 2年P.122 「29おりがみ名人」
(希望と勇気、努力と強い意志)
- 5年P.102 「22治せない病気を治すために
—山中伸弥—」 (真理の探究) など

○ | B |

主として人との関わりに
関すること



Bの視点のアイコン

- 自己を人との関わりにおいて捉え、望ましい人間関係の構築を図るための教材を各学年に8～11点設置しています。
この視点の教材には、次の内容項目が系統的に考えられるよう網羅されています。
 - 親切、思いやり
 - 感謝
 - 礼儀
 - 友情、信頼
 - 相互理解、寛容 (3年～6年)

- 6年P.144 「31最後のひと葉」
(親切、思いやり)
- 5年P.22 「4助け合い傘」 (感謝)
- 1年P.96 「26だいいじなわすれもの」 (礼儀)
- 2年P.126 「30モムンとヘーテ」 (友情、信頼)
- 3年P.132 「30りつとにじのたね」
(相互理解、寛容) など

○ | C |

主として集団や社会との
関わり関すること



Cの視点のアイコン

- 自己をさまざまな社会集団や郷土、国家、国際社会との関わりにおいて捉え、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を養うための教材を各学年に11～15点設置しています。
この視点の教材には、次の内容項目が系統的に考えられるよう網羅されています。
 - 規則の尊重
 - 公正、公平、社会正義
 - 勤労、公共の精神
 - 家族愛、家庭生活の充実
 - よりよい学校生活、集団生活の充実
 - 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
 - 国際理解、国際親善

- 4年P.108 「24雨のバス停留所で」
(規則の尊重)
- 5年P.52 「10ガンジーのいかり」
(公正、公平、社会正義)
- 3年P.56 「12はた・らく」 (勤労、公共の精神)
- 1年P.118 「31ぎんのしずく」
(家族愛、家庭生活の充実)
- 3年P.20 「4四人五脚」
(よりよい学校生活、集団生活の充実)
- 2年P.118 「28ぼくはまっている」
(伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)
- 6年P.178 「39第九がひびく町
—ドイツと鳴門 友好のかけ橋—」
(国際理解、国際親善) など

○ | D |

主として生命や自然、
崇高なものとの関わり関すること



Dの視点のアイコン

- 自己を生命や自然、美しいもの、気高いもの、崇高なものとの関わりにおいて捉え、人間としての自覚を深めるための教材を各学年に7～9点設置しています。
この視点の教材には、次の内容項目が系統的に考えられるよう網羅されています。
 - 生命の尊さ
 - 自然愛護
 - 感動、畏敬の念
 - よりよく生きる喜び (5年・6年)

- 4年P.154 「34五百人からもらった命」
(生命の尊さ)
- 5年P.66 「13未来につなげたい思い —尾瀬—」
(自然愛護)
- 3年P.74 「16花さき山」 (感動、畏敬の念)
- 6年P.160 「35わたしはひろがる」
(よりよく生きる喜び) など